

西淀病院と医療人をつなぐコミュニケーション誌

よどコミュ!

Vol.4

2018.8



特集

2. 西淀病院の医師研修

CONTENTS

4. キラリ★西淀人 5. JOYS(女医ズ!)
6. I Love Patient 7. シリーズ職場REPORT



特集



西淀病院の医師研修

西淀病院は、臨床研修病院として2008年から指定を受け、現在までで15名を超える研修医を受け入れてきました。また、研修修了後も、引き続いて西淀病院で勤務をしていただいている先生も多く在籍しています。2018年度、初期研修をされている先生と、初期研修を終えられ、後期研修に進まれた先生から、それぞれお話をお聴きしました。*

熱心な指導と雰囲気によさに魅かれて

西淀で研修しようとおもったきっかけ

医学部3年生のころ、座学だけでなく、早く臨床現場にふれたいと考えていた際に、偶然、学内の掲示板で西淀病院が主催している患者さん向け喘息学習会の張り紙を見て、当時喘息について講義を受けたばかりであった私はとびこみ参加しました。その際に病院の規模や雰囲気の印象がとてよかったです。第一のきっかけでした。第二のきっかけとして、高学年になってから参加した病院説明会で再度西淀病院を見つけ、見学時の雰囲気がよく、指導医の先生が大変熱心に指導してくださったこともあり、直感で西淀病院での研修を決めました。研修医が少人数である点もマイペースな自分には合っていると考えました。

2年目で今感じていることよかった点や改善すべき点は？

よかった点としては手技が多くまわってくる場所です。動脈血採血から腰椎穿刺、CV、腹水穿刺等たくさん経験させて頂きました。また、耳原総合病院との「たすき掛けプログラム」にもなっており、2つ

の病院で研修を受けたことで、病院の規模と受け入れる疾患の違いなどを体感できたことは貴重な財産であると感じています。改善すべき点としては、論文を調べたり、ガイドラインを読む機会が自分としては若干少なかったように思うので、今後は意識的にそういった機会を増やしていければと思っています。

来年初期研修を行う先輩へつたえたいこと

初期研修先選びは今後の進路ともかかわってくるので大変かと思いますが、説明会などでいいなと思ったところには積極的に見学に行くのがよいと思います。実際に病院見学に行ってみると感じるものがとても大切であると思うからです。将来を楽しく過ごすために、ぜひいろんなところへ病院見学に行ってください。



初期研修

坂部 千恵 医師

後期研修

鈴木 新 医師

西淀で働き始めて変わった私の病院像

私は医師人生を西淀病院で開始しましたが、働き始めてみると自分が描いていた病院像は良い意味で裏切られることとなりました。学生時代は、病院というのは「病気を治す場所」だとして考えていませんでした。もちろんそれは病院の重要な役割のひとつではありますが、それが全てではありませんでした。例えば入院患者さんの場合、入院の原因となった病気を治すだけではなく、その後自宅や施設に戻って安定した生活を送るためにどういった支援が必要かを、それぞれ全職種で真剣に考えていきます。病気が治った段階で、どれくらい自分で歩けそうか、自室にたどり着くまでにどの位の高さの段差が何段あるのか、食事を用意する人がいるのか、通院が可能なのか等を逐一評価して、入院中に必要な支援はなにかを決めていきます。こうした評価はそれぞれ入院した段階から始まります。そして、看護師、薬剤師、セラピスト、社会福祉士、事務の方々の力がなければ退院後の生活をも見据えた病院の活動は成り立たないのだということを実感しました。

地域の小学校にて喫煙防止教室の講師を務める鈴木新医師→



後期研修1年目今感じていることは？

医師になりたての頃、突然体調を崩して入院になった高齢患者さんのご家族が、病気についての不安と今後の介護についての不安で立ち竦んでいる姿を何度も目にしました。そして当院の支援によって、退院までにしっかりとサポート体制が構築され、ご家族の不安が解消される事例をたくさん見ることができました。私はこうしたチームの一員として働けることに強い誇りを覚えました。初期研修から引き続いて西淀病院で研修を受けたいと思った最大の理由はそこにあります。今は地域の人々に信頼される家庭医になるべく研修を続けています。

誇りを持って働ける病院

(※) 初期研修：医学部卒業後、2年間の研修が義務づけられており医師としての基礎的な技術や態度を学ぶ期間
後期研修：専門研修として、自分が将来担う科での専門的な技能を学ぶ期間



西淀人 Vol.04

赤路 英世
西淀病院 副院長

第4回は、赤路英世副院長です。
医師としての原点から、今の思いを語っていただきました。



医師としての原点 今感じること

臨床医は、出会った患者さんの影響を受けながら(患者さんから学びながら)育っていくと思います。私は、研修医の頃受け持った患者さんに消化器疾患の方が多かったことが消化器内科に進むきっかけでした。特にアルコール性肝硬変で、黄疸・腹水で入退院を繰り返す患者さんとの出会いは印象に残っています。彼が断酒会に入り、数年後に立派に見違えるようになり目の前に現れた時は驚きました。1992年に始めた月1回の「院内アルコール講座」は300回を超えました。アルコールで困っている患者さん、困っているご家族、困っている医療従事者がいる限り、続けていきたいと思っています。私は医者になる時、これをやりたいというものがなかったからかわかりませんが、求められているところで頑張ろうと思ってやってきました。困っているところに医療はある。そこが原点と思い、求められるところで働く思いを大切に、患者さんから学びながら歩んできました。病院(入院・外来)・診療所・在宅診療・がん医療・アルコール・肝炎訴訟等、いろいろな場所で頑張ってきたと思います。しかし、一人で頑張るだけ

ではだめです。最近の医療は、細分化され、自分だけの手に負えないことが非常に多くなってきました。いい医者になるためには、いかにみんなと協力連携し合いながら、患者さんのための医療を行っていくマネジメントができるかが、大事になってきていると思います。

後輩医師へのメッセージ

昔は、研修指導も、若い先生は上級医の背中を見ながら育つとの思いで、見本になるような働き方として、がむしゃらに頑張ったこともありましたが、今は、若い先生を育てるには、教えすぎず、自主性に任せることが大切だと思うようになってきました。若い先生が、こんな医者になりたくないという働き方をしてはいけないと思います。人生や生活を楽しむ医者にならないと、仕事だけの医者では、若い先生がついてこない。これからの指導医の先生方には、仕事と生活と家庭を大切にできる、若い先生のロールモデルになるような、こんな医者になりたいと思われるような医者になってほしいですね。この数年、西淀病院に若い先生が増えてきたのは、家庭や子育てを大事にしなが、若い先生が仕事をしている姿を見て、自分もこういう働き方ならできると感じてもらえたからじゃないかと思っています。

今後の抱負

これからも、求められたところで、新しいことをどんどんやっていきたいですね。頼もしい後輩も出てきているので、後輩たちの巣立ちを楽しみにしながら、一緒に医療を行っていきたいです。細かく手取り足取りするのではなく、若い先生を信じ、任せることが、若い先生の成長に繋がると思っています。

JOYS! 女医ズ!

日本一女性医師が働きやすい病院を目指して

女性医師に聞く!

2005年近畿大学医学部卒業。2児の母。
福井大学にて総合診療を学ぶ。
2018年に西淀病院に入職。

山本 安奈さん

西淀病院との関わりについて

私は、実家が大阪で、小学5年生から大学まで大阪で生活していました。仕事は、家庭医、総合診療医として、ほとんど福井県で過ごしていましたが、この度、実家の近くに拠点を移すことになり、なるべく医療を継続できるような職場を探しておりました。その時に西淀病院を見つけ、大島先生(院長)と研修担当の今村さんに何度か面談をいただき、患者さんやご家族に寄り添った医療ができそうと感じ、お世話になることを決めました。

どんな医療活動 どんな働き方?

家庭医というのは、その時々で求められる医療が違いますが、現在は、西淀病院の救急、総合診療外来を中心に、のぞと診療所慢性外来と往診部、姫島診療所外来と往診を担当しています。また、後期研修医、初期研修医の指導は、自分の好きな仕事の一つで、指導の中に学びを感じております。家庭医として思うことですが、大阪にはバラエティに富む患者さん(病状的にも 背景的にも キャラ的にも!?)が多く、その方に合わせた医療には大きな幅があると思いました。一筋縄ではいかないことも多いですが、やり甲斐も大きく、成長させていただく日々です。患者さんの抱える問題の解決には、多職種の力が本当に必要だと感じております。

子育てと家庭の両立

現在小5と4歳の男の子2人を育てております。また夫も一緒に大阪に転居して新しい職場で働き始めました。彼らも、ガラリと生活が変わり、いろいろ慣れないこともあると思

ますが、幸い今のところなんとか大阪生活を楽んでいるようです。今まで夫婦で家事も育児もまわしていましたが、やはり限界を感じており、実家近くに引越しし、ものすごく助かっています。毎朝、私が病院とは逆方向の実家に子どもを届けてからの出勤で、しんどいと思う時もありますが(贅沢!?)物理的にも心理的にも、両親のサポートのおかげで続けられています。特に、子どもに熱が出たとか、急なことが起きた時、我が子をおいて患者さんを診るママドクターの心は若干複雑なものです。母に「まかしといて!大丈夫だから!」と送り出してもらえるので自分も頑張るぞと思えます。

医局や病院スタッフ

医局のみなさんも、臨機応変に対応してくださるので本当にありがたいです。次男の保育園行事が急に舞い込んだり、その他の急な勤務調整も親身になって考えてくださり、またその調整をお願いをする時にも、(本当は大変でしょうに)ものすごく言い易い雰囲気を出してくださいます。まるで医局全体の問題だともいうように。とても温かいです。子育て中、子育て後の先輩先生方も男女ともに多数おられ、言語的、非言語的に非常にサポートしてくださるので心強いです。院長との距離が近いことも私の中ではありがたいことの一つです。診察的なことから身の上話までいつでもそっと支えてくださいます。また外来や往診では看護師さんを中心に突然やってきた私でも受け入れてくださり、働きやすくして下さることも感謝感謝です。この病院に来て本当に良かったと思います。大阪での生活がうまくいっているのも西淀病院のおかげです。今後、もう少し自分が病院のためにできることを増やしていつか恩返ししたいです。



悩んだら1人で決めない、1回で決めない

耳を傾け集団の力で向き合う

西淀病院の魅力

西淀病院は、地域の方が入院や受診をされる中小病院で、最大の魅力は医師を含め自分たちで完結出来ないところだと私は思っています。完結できないからこそ自分たちができることに責任を持ち、しっかり連携する力が必要になってきます。患者さんや地域の方々、他の医療機関、事業所から信頼される病院でなければ連携してもらえないですから。集団の力を試されながら無差別平等の医療を実践している病院です。

働き始めて24年が過ぎましたが、この地域の人々と関わる中で今も看護師として育てていただいています。

治療は医師との信頼関係から

病棟の師長として配属され間もない頃出会った60才台の肺癌のAさん。「生きたい」の思いが強く、抗がん剤治療が出来ないとされたあと、民間療法へ移行されました。呼吸困難と、癌性疼痛、咳嗽を主訴に再度西淀病院へ戻ってこられた時が、最初の出会いでした。Aさんは妻と死別され、子どもはなく、独りで入院されてきました。なんとか肺癌治療を継続したい思いと、身体がそのことを受け入れる状態ではないことの間で、死に対する不安が募っていました。主治医にその気持ちを伝えることが出来ず、「息が苦しいねん、不安で仕方ない。死ぬかな」と訪室する度に看護師に話していました。



Aさんに今の気持ちを主治医にも伝えようと説得し、主治医にもAさんの気持ちを伝え、もう一度Aさんと話し

副看護部長 小玉裕加子 (写真右から2人目)

合いたいと、再度IC(インフォームドコンセント)をすることになりました。

最期まで「生きたい」に応えたい

「先生、生きたいねん。先生は出来ないって簡単に言うけど切り捨てられた気持ちになる。あきらめきれない」とAさんは訴えました。そして主治医は丁寧に、自分の気持ちと方針を説明し、思いを伝えてくれたことに感謝しました。その後のAさんは、表情も穏やかになり、死に対する不安の訴えはあるものの、思いを受け止めた主治医を信頼し、自分を任せられるようになりました。

その後何度となく胸水がたまり入院を繰り返すうちに、在宅酸素療法が導入されました。行動に制限がかかる中、レクリエーションをとても楽しみにされ、1回目の参加で「あの話し合い以降、先生に色々言えるようになって嬉しいねん。先生も声かけてくれる」と、デジカメで撮った先生や私たちの写真を見せ「楽しかった、来年も行きたい」と言っていました(残念ながら2回目のレクリエーション参加はできませんでした)。

信頼の中から判断する集団の力

Aさんから教えられたのは、信頼しうる誰かを作ることの重要性でした。その人の最期を見逃さない。その不安定で、微妙なタイミングは、日頃から患者さんの状態をつかみ、思いに耳を傾け、今だという判断を間違わないことです。その判断には何よりも医師の後押しが必要になり、集団で行うことで精度が上がります。そして、患者さんが最も安心して生活する場を医療者が決めつけてはいけないと思います。民医連は倫理的に悩む場合、1人で決めない、1回で決めないという方針を出しています。

悩んだ時に、患者さんやご家族は何を願っているのかをタイムリーにつかみ、その希望を叶える議論する集団であり続けたいと思っています。

シリーズ^{職場}REPORT

第4回 地域医療連携センター

西淀病院の“顔”として頑張っています!



地域医療連携センターはこうして誕生しました

①入院から退院を一連の流れとしてとらえ、途切れない支援を行うこと、②他医療機関や介護施設、また地域包括支援センターや行政等他機関との連携を強化すること、という大きな二つの目的で、別々の部署としてあった地域医療連携室と医療福祉相談室を2015年4月にセンター化しました。センター長の結城副院長のもと、担当副事務長、看護師4名(前方担当2名、退院支援担当2名)、事務2名、医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)5名の計13名(2018年6月15日時点)で構成されています。



◀地域医療連携室 医療福祉相談室▶

入口の地域医療連携室

地域医療連携室は、地域の開業医の先生からの検査、入院依頼の対応、他医療機関での急性期治療終了後のリハビリ、在宅調整目的の転院相談の受付、入院退院の統計業務、入院患者の情報の取り寄せ、退院患者の診療情報提供書返送の管理などを主な業務としています。他院からの評価は最初の対応がよいか悪いかでほぼ決まるといっても過言ではありません。「また西淀病院に頼んでみよう」そう思っただけのように丁寧な対応を心がけています。

出口の医療福祉相談室

医療福祉相談室の業務は、主に退院支援と介護保険や身体障害者手帳などの制度の活用支援、社会的、経済的問題への対応などです。疾患により入院前に比べてADLの低下がみられたり、新たな障害を負ってしまったとしても、「住み慣れた場所で生活したい」「安心して生活したい」という患者さんの思いに寄り添い退院を支援します。経済的困難に対しては、生活保護の申請に同行したり、当院が実施している無料低額診療事業の案内を行います。地域の事業所や行政とも連携し、多職種・多機関共同で患者さんの持つ困難に対応します。

地域の他機関とよりよい連携をめざして!

地域医療連携センターとして大切にしていることは、いかに地域の医療福祉関係者に西淀病院を知っていただくかということです。そのための活動として①年に2回「地域医療連携学習会」を地域の医療機関や介護事業所向けに開催②センター長の結城副院長とともに他の医療機関、介護施設へごあいさつ回り③他医療機関、他施設からの連携学習会や連携会議の呼びかけには積極的に応じる等、顔の見える関係を構築することを心がけています。「この地域には西淀病院が必要だ」そう思っただけのようにこれからも頑張ります!



センター長の結城副院長

クイズ

7つのまちがいさがし

正解者の中から抽選で5名に
図書カードを進呈します。

(但し医師・看護師及び医系学生の方に限ります)

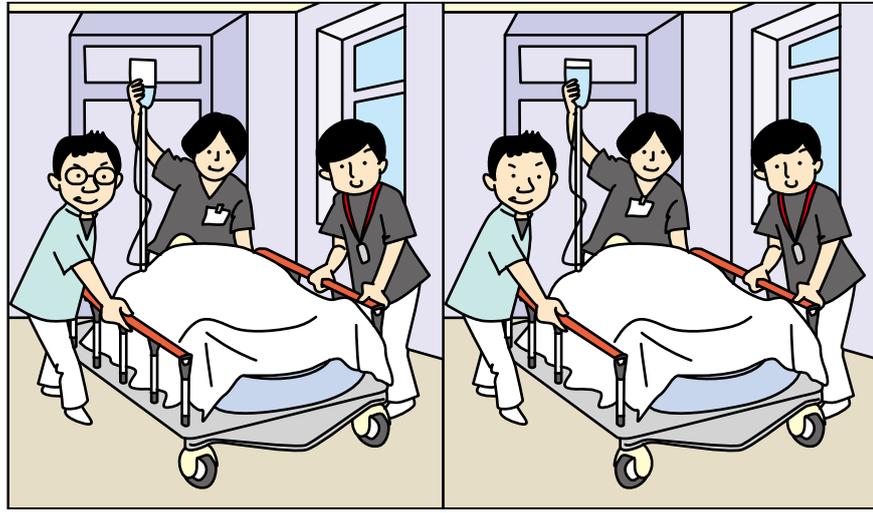
締切日: 2019年2月末到着分

はがき又はE-mailで答えを送ってください。

- ・クイズの答え
- ・氏名・職種・職場名又は学校名
- ・住所・電話番号・E-mail

E-mail: yodocom@yodokyo.or.jp

郵送: 〒555-0024 大阪市西淀川区野里3-5-22
西淀病院 クイズ係 宛



患者さんと向き合う
中小病院ならではの医療を、
ともに目指しませんか？

研修医・医師・看護師募集中!

病院見学・実習随時可能。お問い合わせください。

一般財団法人 淀川勤労者厚生協会 西淀病院
〒555-0024 大阪市西淀川区野里3-5-22
TEL: **06-6472-1141** (代表)
医師／看護師採用担当までご連絡ください。

編集後記

2017年度は病院単独で2億円の赤字予算を達成することができました。これは全職員で経営活動にとりくんだ成果です。厳しい情勢の下、病院単独で大きな赤字を確保できた最大の要因は、職員に浸透した「ことわらな」でした。救急車の受け入れは年間約2500台を数え、救急断り率(いわゆる不応需率)は8%弱とひとケタでした。また入院も「ことわらな」が定着しました。「ことわらな」は地域の信頼に応えることでもありました。

当法人は昨年創立70年を迎えました。地域の労働者が「病院もわれらの手で」と創立した病院であり、文字通り「地域の財産」であって、その意味で赤字経営は、いわば「地域の財産を食いつぶしている」ともいえました。われわれの使命は、地域の財産である西淀病院を次の世代にしっかりと手渡していくことだと考え、経営改善の活動にとりくんできました。それは「誰のため、なんのため」を問い続けることでもありました。

地域に根差した当院に魅力を感じて、一緒に地域医療活動にとりくむ熱意を持った医師を心からお待ちしております。

淀川勤労者厚生協会西淀病院

救急病院 基幹型臨床研修指定病院

大阪市西淀川区野里3-5-22 TEL: 06-6472-1141

診療科目

内科(呼吸器、循環器、消化器、神経、糖尿病・代謝)
外科・整形外科・婦人科・泌尿器科・放射線科・
小児科・リハビリテーション科・血液浄化室(人工透析)

総ベッド数: 218床

一般病棟: 108床

回復期リハビリテーション病棟: 56床

地域包括ケア病棟: 54床

血液浄化室(人工透析): 25床

